

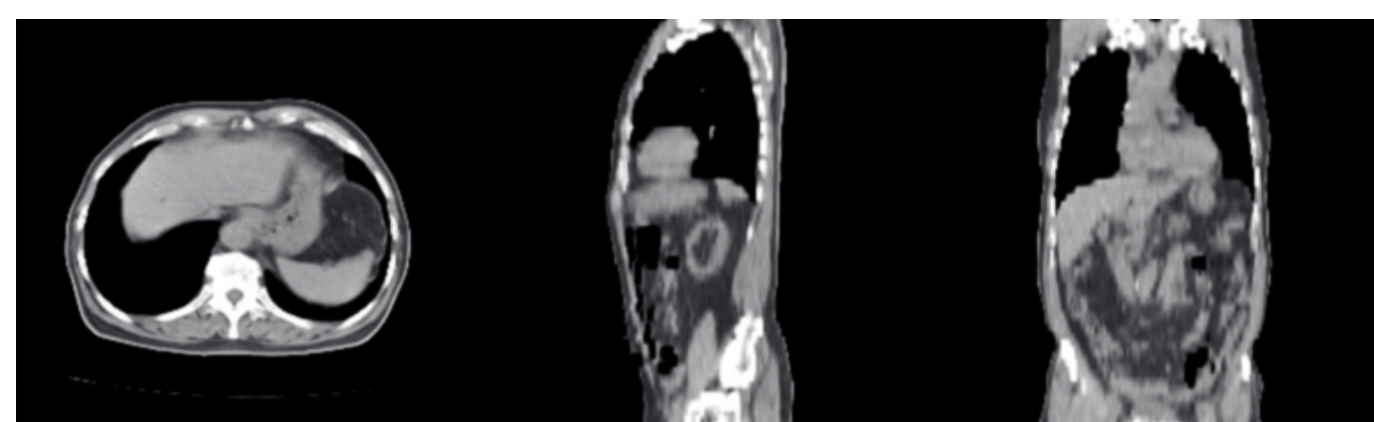
FDG-PET検査について

ブドウ糖によく似たFDGという薬は、正常細胞に比べ腫瘍によく集まる性質を持っています。そのためFDG-PET検査は腫瘍に対して敏感です。肺がん、大腸がん、乳がんなどさまざまながんの早期発見だけでなく、再発や転移の有無などCT、MRI等の検査でわかりにくい病変の検索に有効で、高い診断能力を持っています。また各部位ごとではなく、一度に全身の撮影ができるため、短時間で効率よく検査できるのも特徴です。

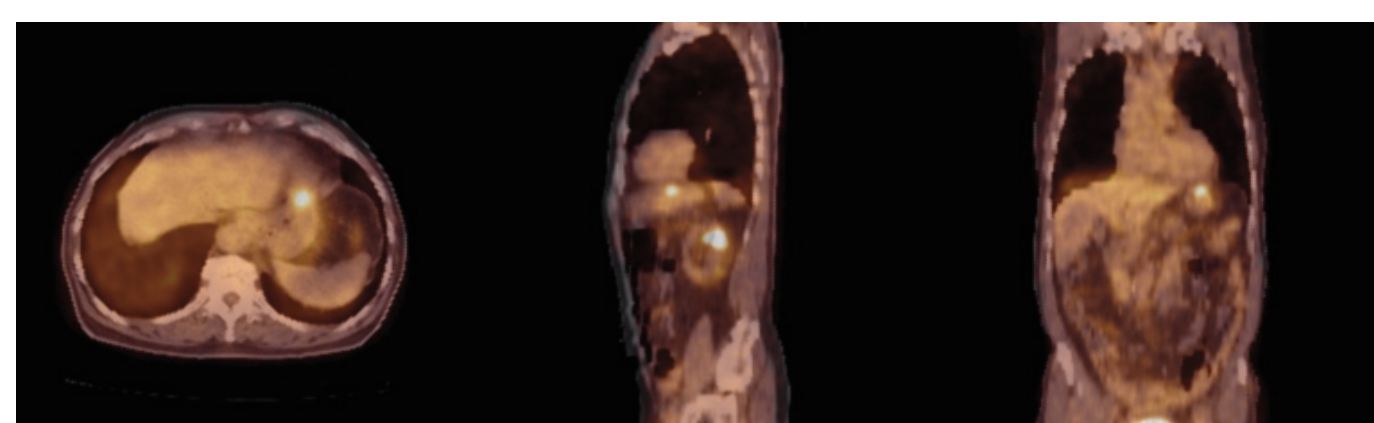
しかし、FDGは腎臓から尿中に排泄されるため、腎臓や膀胱などは診断が難しいといわれています。また腫瘍の種類によってはFDGの取り込みが低いものもあり、FDG-PET検査ですべてのがんが見つかるわけではありません。CTやMRI、内視鏡などの他の検査と組み合わせることでより正確な診断が可能です。またFDG-PET検査は保険適用の検査以外に検診（人間ドック）にも利用されています。

検査の方法はFDGという薬を静脈注射し、薬が全身に行き渡るまで40分程安静にします。その後検査用ベッドに20～30分程仰向けに寝ていただくだけの簡単な検査です。注射以外には苦痛はほとんどなく、体への負担が少ないのが特徴です。

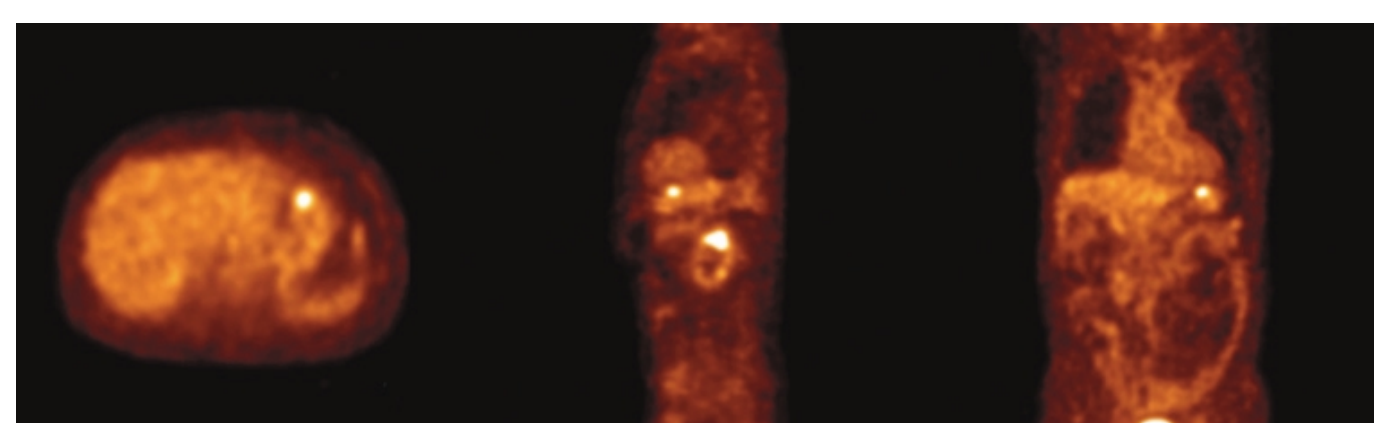
近年、PET装置にCT装置が合体したPET-CT装置が開発され、CTの解剖学的画像とPETの機能的画像を融合することにより、短時間の検査でがんを容易にみつけることが可能です。



CT画像

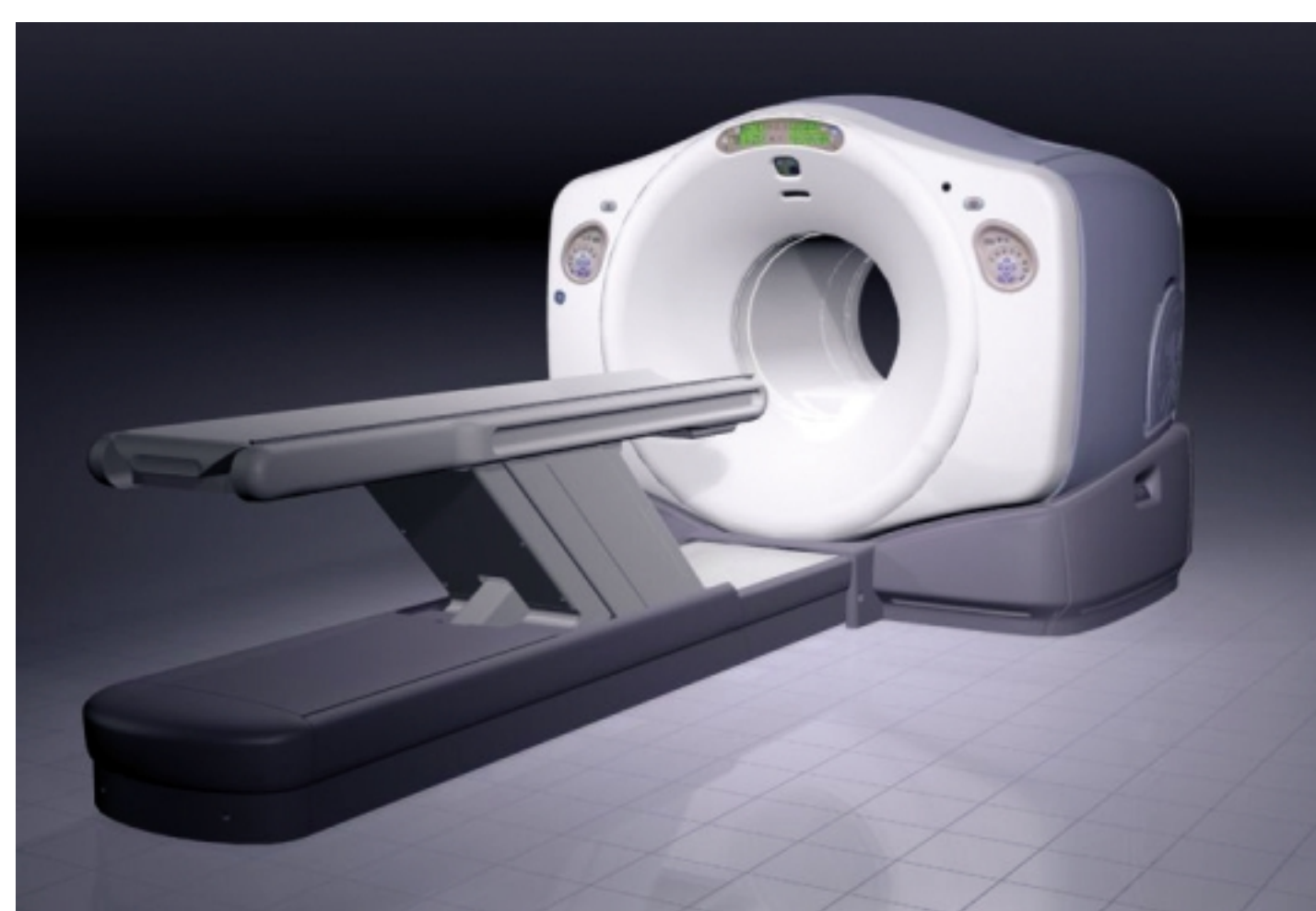


融合画像
(CT+PET)



PET画像

融合画像（左側）
最新のPET-CT装置（下側）



大腸がん



乳がん



肺がん